

O-0615**回復期リハビリテーション病棟における車いすレンタルシステムが病棟 ADL に与える影響
入院時 FIM と FIM 効率からの考察**伊藤 貴史^{1,2)}, 佐瀬 隼人¹⁾, 加藤 美幸¹⁾¹⁾苑田会リハビリテーション病院 リハビリテーション科, ²⁾苑田第三病院 リハビリテーション科**key words** 車いす・レンタル・FIM**【はじめに, 目的】**

回復期リハビリテーション病棟では ADL において車いすを必要としている患者は多い。しかし、当院では患者各々に適した車いすを備品として所有していないのが現状である。そこで、当院では病棟 ADL 向上を目標の一つとして福祉用具レンタル会社と契約し、費用は当院負担で患者に合ったモジュラー型車いすなどをレンタルするシステムを導入した。本システムは 2013 年 12 月より開始されたもので、車いすをレンタルする患者の選定は各担当セラピストの評価と患者目標により決定している。システム導入後半年が経過し、車いすをレンタルする患者が増加してきた。今後、車いすをレンタルする必要の有無や必要なくなり回収する時期などを検討していく必要があると感じている。そこで今回、車いすをレンタルした患者の ADL の状況を明らかにしていくことを目的に、入院時 FIM と回収時の FIM を比較検討したので若干の考察を加えて報告する。

【方法】

本システムを導入した 2013 年 12 月~2014 年 6 月に当院に入院し、車いすをレンタルした患者 47 名のうちすでに車いすを回収した 20 名を対象とした。対象者の属性は、男性 7 名・女性 13 名、平均年齢(標準偏差): 78.7 (7.6) 歳、疾患の内訳は、脳血管障害 15 名、下肢骨盤帯の骨折 3 名、脊髄損傷 1 名、廃用症候群 1 名であった。また、入院日、対象者の車いすレンタル開始日と回収日、入院時 FIM、車いすレンタル回収直近の FIM をカルテより後方視的に調査した。入院から車いすレンタル処方までの日数の平均(範囲)は、23.4 (3~87) 日、車いすが処方されてから回収するまでの日数の平均(範囲)は、65.3 (13~149) 日であった。車いすをレンタルして処方することによって病棟 ADL にどのような影響を及ぼしているか、またレンタルしている日数の差によって ADL にどのような影響が出ているか検討するため、対象者の入院時 FIM と回収時の FIM から FIM 効率を算出し、その関連性を Spearman の相関係数にて検討した。なお、有意水準は 5% とした。

【結果】

全対象者の入院時 FIM の平均(標準偏差)は 45.3 (23.0)、入院時に車いすを使用していたがレンタルせずに当院所有の一般的な車いすを処方した患者の入院時 FIM の平均(標準偏差)は 67.5 (25.4) であり、車いすをレンタルした患者は病棟 ADL が著しく低い者が多かった。回収時 FIM の平均(標準偏差)は 63.5 (33.6) であり、対応のある t 検定の結果、入院時に比べ有意に FIM の点数は向上した。車いすレンタル期間の FIM 利得の平均(標準偏差)は 18.2 (17.2)、FIM 効率は 0.56 (0.90) となった。Spearman の相関係数の結果、入院時 FIM と FIM 効率の間に有意な相関を認められた($r=0.645$)。入院時 FIM と入院から処方までの日数、入院から処方までの日数と車いすを使用している期間には有意な相関は認めなかった。

【考察】

当院での車いす処方は、セラピストの評価と患者各々に設定した目標により決定している。患者各々の短期目標には、車いすでの食事動作自立など具体的な ADL を目標にする患者から機能面の向上を掲げるに留まる患者もいるのが現状である。今回の調査結果より、車いすをレンタルした患者において入院時 FIM が高い者は FIM 効率も高いことが示唆された。これは、入院時 FIM が高値で車いすをレンタルするケースは、早急に病棟 ADL を向上させたかったケースが多く、入院時 FIM が低値で車いすをレンタルするケースは、まず筋緊張の調整や座位姿勢の改善といった機能面の向上が目標で、その後ゆっくりと ADL が向上したため、レンタル期間が長くなる傾向にあったと思われる。今後、車いすをレンタルする必要がある患者に対して、患者各々が適した時期に処方され必要な期間レンタルできるよう、ADL 評価・機能評価を十分に行い、病棟看護師を含めたチームで患者の目標を設定していく必要があると考えている。

【理学療法学研究としての意義】

回復期リハビリテーション病棟に入院する患者は、自宅退院するためには病棟 ADL を向上させる必要がある。患者に適した車いすのレンタルはその一助になると考える。車いすレンタルをした患者の病棟 ADL の傾向を詳細に把握することで、今後、車いすをレンタルする患者の選定、回収時期の検討が容易になり、より患者に合わせたサービスを提供できるようになると考える。